

## ○まいでいプロジェクト 館中学校との交流「全校集会」※PTA講演会

飯館中より来ていただいた皆さんと全校生徒で直接交流しました。今年度はPTA講演会と併せて実施しました。飯館中と中央中全校生徒による「飯館中校歌斉唱」、生徒会執行部による企画など、全校生徒全員で集会を作り上げました。生徒の感想を一部紹介します。ぜひ、お読みください。また、ご家庭でもお子さんから、ぜひ話を聞いてください。



### ◆飯館中学校との交流「まいでいプロジェクト」のはじまり

本校と飯館中との交流は、6年前の平成23年3月11日に東日本大震災が起き、当日の中央中学生徒会が募金活動を始め、翌年2月にパソコン12台を福島まで直接届けたことから始まりました。以来、飯館中学校との交流を「まいでいプロジェクト」と名付け、毎年様々な交流活動を行っています。昨年度より飯館中交流全校集会を位置付けています。

私は、震災で家や家族を失った人たちが、今もふるさとの復興に対し、前向きな姿勢で取り組んでいることを知り、すごいと思いました。同時に今の私はどうなのだろうと考え、自分がいかに恵まれていて、どれだけそれに甘えているのかを痛感しました。これから自分に厳しく生活していけるとよいと思います。

私は、もうあの地震から6年経つ、正直、忘れかけていました。でも、飯館中学校と交流して、私たちが生きている、絶対忘れてはいけないことだと思いました。中学生活を通して、この活動ができることは、すごいことだと思います。私は、忘れてはいけないと思うので、この活動がずっと続いていくといいなと思います。中央中学校にとって、私たちが震災について身近に学ぶことができる、中学生同士だから話せることもあると思います。村で過ごせるよう願います。

僕は、飯館の人たちは本当にすごいと思った。僕たちと同じ年代にも関わらず、村という大きなもののためにできることを考え、それを行動に移せていて、本当に尊敬した。また、自分の町に想い入れのない僕に比べて、村への想い入れの強い飯館の人が、うらやましいと思った。

飯館中の中で、まだ家に帰れていないと言っていたことに驚きました。もう6年経っているのに未だに家に帰れていないことにびっくりしました。自分たちが今当たり前のように生活していることが当たり前になっていますが、自分の生活の当たり前が当たり前じゃなくなるなど考えてもいないし、予想外だと思う。自分も当たりの生活ができなくなったら戸惑うだろうし、とても苦労すると思うが、飯館中の皆さんはそれを乗り越えて明るく生活していることについて、すごいと思ったし、尊敬したいと思いました。自分の今の生活が当たり前じゃなくなったら、人と人で助け合って生活して、当たりの生活を取り戻せるように、飯館中とのことを生かしていければと思います。

飯館中の皆さんが、来春から本校舎に戻って頑張ろうと思っていることがわかった。飯館村を広めるために飯館中の皆さんがいろいろな活動をしていることがすごいと思った。震災を通して、飯館中の皆さんが自分の村のことを改めてよいところだと思えたのはよいことだと思ったし、私も自分の住んでいるところを大切にしたいといけないなあと思った。

「まいでいプロジェクト」は、去年よりもずっと進化していてCMまで作っているので、とてもすごいと思いました。震災復興のために、いろいろな活動をしていて、同じ中学生なのに、どうしてこんなに違うのだろうと思ってしまいます。でも、それは震災が変えてしまったことだと思います。震災前はきっと私たちと同じような生活をしていたのに、多くの尊い命が失われたというつらい思いを背負い、思い出のものが跡形もなくなり、生活もままらなくなり、結果的には彼らを追い詰めることになったはずで。こういったことがよく伝わる会でした。私も同じ中学生として、今自分にできることを一つずつ探してやっていきたいと思います。

私は、質疑応答の時の「大人になったら飯館村に戻りたいか」という質問で、「戻りたくても・・・」という言葉に、本当は、2011.3.11まで生まれ育ってきた所へ帰りたけれど、復興によっては戻れないと考えるととても辛く苦しい思いになるだろうと思いました。私は、日曜日の交流に参加したのですが、その時、浅野先生（※飯館中の先生）が、「あの質問は、いつも近くにいってもなかなか聞いてあげられないことで、生徒の本心を聞いてよかった」とおっしゃいました。今の私たちにできることは、まず心で飯館の子を支えることだと思いました。

## 連絡事項

### 【平成29年度 学校評価のお願い】

・後日、評価用紙を配付します。よろしくお願ひします。

